

いらない物は、徹底的に捨てる。

いらない物を捨てる、不思議なことに生活に品が出てきます。

普通に考えれば、物がたくさんあるほど裕福に見えそうです。

しかし、実は、逆なのです。

裕福だからこそ、物を持たないようにして、軽くなろうとします。

持つとしても「一番の物」だけを持つようにします。

一番ではない、2番や3番は必要ありませんから、どんどん捨てていきます。

そうしていけば、最後に残る物は、一番だらけになってしまうのです。

一番お気に入りの歯ブラシ、コップ、皿、本、シャーペンなど、一番だけを持つようにしましょう。

結果として、部屋の中の物をどんどん捨ててしまうことになりませんが、品性のために必要なことです。

実際に使う物といえば、一番だけです。

使いもしない物を部屋の中に置いていても、飾りになるどころか、部屋が散らかる原因になります。

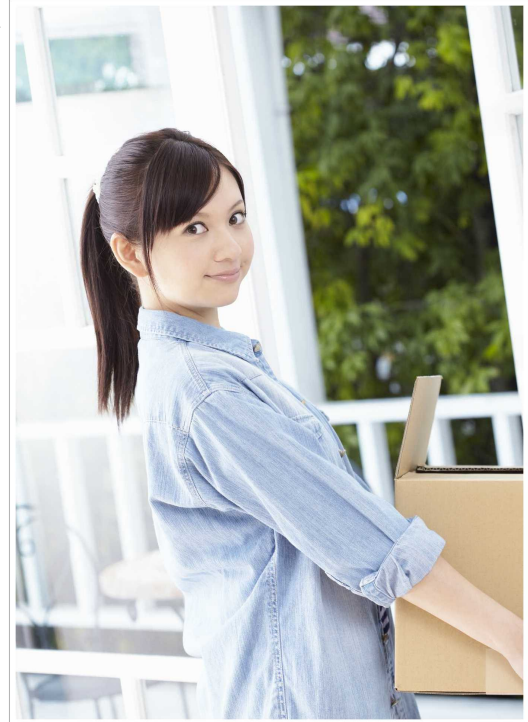
片付けにも、整理にも、掃除にも、手間がかかります。

品のある人の部屋を見ると、物が少ないことに気づきます。

いつでも引っ越しができるくらいに、物が少なく、整理がされています。

品が出ているのです。

貧乏性の方は、何でもかんでももらいたがります。



もらった物を、部屋中に置いて、自分が貧乏であることを隠そうとしています。

しかし余計に貧乏に見えてしまうのです。

レストランに行くと、無料提供の砂糖やガムシロップを「無料ならもらっておけ」と言わんばかりにバッグの中へ詰め込みます。

これは、貧乏性の人ほどやってしまいがちです。

お金がなくて困っているからと、部屋に物をたくさん置くことでコンプレックスを補って、隠そうとしています。

貧乏性の人ほど、部屋に物がたくさんあります。

結果として、物で散らかり、品が失われています。

部屋のあちこちに物を置くことで「これだけ物を置けば貧乏そうには見えないだろう。実は裕福なんだぞ」と思っています。

たくさん物があっても、どれも使わない物ばかりなのです。

自分の生活を振り返れば、毎日使っている物は、いつもお決まりの物ばかりです。

たくさんないといけないというところか、毎日使っている物は、いつも同じ物です。

使わない物を、思いきって捨てることで、生活の中にスペースができ、新しく受け入れる余裕ができます。

これが、品として映るのです。

気品と美しさを身につける方法 その19

いらない物は、思いきって処分する。